

Nursing あい

北海道看護協会十勝支部ニュース

発行者 (社)北海道看護協会十勝支部
編集責任者 浜名 真由美

No.107

令和3年12月発行



北海道看護協会 シンボルマーク

令和3年度 北海道看護協会十勝支部教育委員会

在宅療養支援における看護連携研修会

開催 令和3年9月25日 12:00~17:00 Zoom 開催

講師 社会福祉法人三草会 GH 認知症ケア・コンサル 照井 レナ 先生



在宅療養支援における看護連携研修会に参加して

公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院 4A病棟 看護師 五十嵐 裕子

今回の研修では、在宅支援における病院の役割や多職種・地域との連携を学ぶことができました。

私が勤務している部署は急性期病棟で、疾患への治療や処置を重視しまう傾向にあります。しかし、この研修で生命の維持と生活の場に戻るという事は、同等に重要である事を知りました。病棟では、毎日の看護カンファレンス、多職種とのカンファレンスを行い、可能な限り入院前の生活に戻れるよう、情報共有、看護計画の見直し、退院後に必要と予測される社会資源の調整を実践しています。しかし、急な病状の悪化やADLの変化により、患者さまから意思を聞くことが困難となり、ご家族の介護が必要となるなど状況が変化する場合もあります。現在は、感染予防対策で面会ができないこともあります、患者さまの状態が伝わりにくく、ご家族のイメージしていた退院後の生活とのズレが生じる場合も多くあります。

研修を終え、在宅支援とは、入院中とは異なる状況を受入れ、患者さまとご家族が生活の場所を整えていくための重要な支援です。患者さまとご家族の思いを尊重できるように、すべての職種との連携に努め、ご家族との情報共有には、オンライン面会などのシステムを利用するなど、患者さまの状況を理解いただきながら、希望に沿える支援を行いたいと思います。貴重な研修に参加させて頂きありがとうございました。

在宅療養支援における看護連携研修会に参加して

訪問看護ステーションりんどう 看護師 吉川 杏実

「個別ニーズに応じた適切なサービスが提供できるよう、退院支援、在宅療養支援が実践できる」ことを目的として、この度の研修会に参加させていただきました。

グループワークでは、事例を基に、退院前カンファレンスでどんな職種が集まり、どのような事を話し合うかをテーマに、意見を交わし合いました。受講者は病院で勤務されている方に限らず、色々な視点で、退院後必要となる支援について話し合うことができました。照井レナ先生のご講演にもありましたように、入院後、意思決定支援を含め、生活の場に帰す援助は早急に始める必要があること、退院後の生活に想像力を働かせることの大切さを感じる場ともなりました。

私自身も、病院勤務を経て訪問看護に携わり、実際に地域で療養生活をする方々と関わる中で、病院の中では知り切れなかった在宅療養の現状が多々あります。例え独居であってもサービスの利用や工夫を凝らすことで地域での生活を継続できること、病院や多職種が連携をとることで在宅生活が支えられていること等、学ぶ毎日です。

病院に勤務していても、患者様が退院後どのような支援を受けながら地域で療養生活を送っているのか、実際に見て学ぶ機会が増えることで、よりよい退院支援や在宅療養支援につながるのではないかと思います。

コロナ禍における訪問看護

長びくコロナ禍の中でウイルスを持ち込まない・受けとらないように日々努力をされている訪問看護の現状について伺いました。

訪問看護ステーションたなごころ

所長 看護師

大溝 敬子

訪問にあたるスタッフの基本的な対応として、自分も含め周囲全ての人に感染リスクがあると想定し標準予防策を徹底して行なう事を継続しております。特に今回のCOVID-19対策においては、利用者・家族に説明する内容を文書にまとめ、事業所の方針・対応について、訪問時に理解を得られるように丁寧に説明をしました。ご自宅の洗面所を使用し手洗いをさせて頂く事、利用者・家族に対し発熱等の症状があれば訪問前に電話連絡を依頼・マスク着用や咳エチケットの励行・症状によっては訪問頻度や時間が変更になる可能性がある事、平常時からPPEの着用やケア内容や症状によっては更なる重装備のPPE着用等について理解を得るようにしました。

また、厚労省のリーフレットを用いて、全利用者宅での家庭内感染の予防策についての指導も実施しました。同法人内の医療機関でのクラスター発生時には、利用者・家族の方から、私達の訪問を控えて欲しいという申し出も数件あり、必要に応じて電話で体調確認をさせて頂くケースもありました。COVID-19対応が長期化する中、これまで経験したことのないストレスの中で訪問している現状ですが、その中でも、感染拡大防止支援補助金等で、タブレット購入や十分なPPEの準備ができ事業継続体制も整える事ができました。新変異株の報告等、不安な点もありますが、日々最新情報をチェックし最善の対応に努めてきたいと考えております。

令和3年度 北海道看護協会十勝支部 医療安全ネットワーク 安全文化の醸成～医療安全推進について考える～

開催 令和3年11月13日

講師 帯広市医師会看護高等専修学校 看護師養成所3年課程設立準備室 足立 敦子 先生



医療安全ネットワーク研修会に参加して

北斗病院 医療安全対策科 専従医療安全管理者 看護師 長屋 洋平

看護協会十勝支部主催の医療安全ネットワーク研修会に参加させて頂きました。

講演会は「安全文化の醸成」というテーマで、安全を守るために医療従事者が理解すべき事、ヒューマンエラーやコミュニケーションエラーについて、医療安全担当者として考える事の3項目の内容でした。

講義を聴いて、特に印象に残り勉強となった内容ですが、改めて日本看護協会で示されている看護業務基準に立ち返り、その責務と実践内容を理解し行動していく大切さを感じました。業務方法を覚えて早く業務を行えることが、安全より優先順位が高くなり、業務を円滑にこなすために安全確認の作業を怠り、その結果インシデントに繋がってしまうという傾向が伺えます。これは、人手不足や常に多重課題に晒される多忙な医療現場であったりすることが背景にあるかもしれません。

しかし、そんな多忙でリスクだらけの医療現場だからこそ、早さより安全を第一に考えマニュアルなど決められたことを守り、安全に正確に業務を行う事が大切です。

看護業務基準、看護実践の責務では、①看護実践は看護職の倫理綱領に基づく ②人の生命及び尊厳を尊重する立場に立って行動する ③安全で安心・信頼される看護を提供するとの、3つが示されています。

専門知識や技術は勿論、医療現場で重要ではありますが、看護の核となる大切な所をしっかりと伝えていくことが、安全文化の醸成には重要と感じました。

令和3年度 北海道看護協会十勝支部 働き続けられる職場づくり推進委員会 コロナ禍における医療者のメンタルヘルス

開催 令和3年11月13日

講師 北海道医療勤務環境改善支援センター 医療労務管理アドバイザー 産業カウンセラー 田崎 悅子 先生



「コロナ禍における医療者のメンタルヘルス」研修に参加して

医療法人社団 博仁会 大江病院 重度認知症病棟 課長 看護師 加藤 優子

メンタルヘルスへの影響を受けやすいハイリスク者として医療従事者が挙げられる。今回の研修ではそもそも看護職が働く環境というのは、人の生死にかかわる、不安緊張の強い仕事、24時間交代勤務による睡眠リズムの変調をきたしやすい、チーム医療における対人ストレスが大きい、医療技術の発展・制度の改変に伴う仕事内容の変化がある、患者様、ご家族に対する「感情労働職」でストレスレベルの高い専門職であり、日常的にストレス対処が必要である、という内容の部分が一番印象に残った。平時から自分を勞わり、自分自身のストレスサインを知る。ストレス過多を自覚したら早めのセルフケアが大事である。しかしながら精神は目に見えない、意識しづらい、自分でも不調に気づくことに遅れる、ある程度、追い込まれた状態、状況にならないと自覚できないという特徴もある。また看護師は職責上、自分が抱く不安を表出することは不得手、そしてコロナ禍においてはこれまでのストレス解消（仲間との飲食やカラオケ、外出など）が制限される形が長引いている。医療従事者として、自分の置かれている状況を受け止め、日々の生活に毎日、短時間でもできるリラックス法を取り入れ、心身ともに健康で働き続けたいと考える。

e ナースセンター

看護職の
キャリアを支援!



ナースセンターは、看護職の定着、確保の「総合拠点」となることを目指して、看護職と求人施設をサポートします。

ナースセンターは「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき平成5年に設置され、北海道知事の指定のもと北海道看護協会が運営しています。

看護協会の会員、非会員に問わず、ご利用いただけます。

入会会員募集!!

十勝支部では、看護の質の向上をめざした活動や事業を行っています。また、様々な環境が大きく変化している今、研修参加や看護協力事業に参加して共に研鑽を積んで行きましょう。入会は下記までご連絡下さい。

【入会申込・変更手続きなどの問合せ先】

公益社団法人北海道看護協会 総務部総務課
TEL 011-863-6731

公益社団法人北海道看護協会ホームページはこちら <http://www.hkna.or.jp/>

北海道看護協会十勝支部会員数

(2021年10月24日現在)

保健師 99名

看護師 1,873名

助産師 83名

准看護師 189名



会員総数
2,244名

編集後記

この度は、研修参加の方々にご協力頂き、ナーシングあいが発行でき感謝致します。

コロナ禍の中研修もオンラインが多くなっていますが、先日の研修では集合研修も開催されました。

令和4年2月5日(土)看護研究会が開催されます。webでの開催になりました。多くの方々が視聴できるといいと思っています。これから本格的に寒い毎日が来るかと思いますが体調にお気をつけてお過ごし下さい。

(広報委員／谷口・長内・鶴田・栗田)